誇りある桑折の歴史

伊達氏発祥の地として知られる、桑折町。

東北の中世の幕開けを告げる寺院と戦国時代の山城、

かつての宿場町の風情が楽しめます。

交通の要衝として栄えた政治経済の中心地 歴史と文化の薫り高い町

桑折町は、東北の大名伊達氏発祥の地と知られ、初代朝宗の墓所や伊達氏に関連する史跡、寺院が数多く残されています。約490年前に伊達氏17代「独眼竜」政宗の曾祖父14代植宗（たねむね）が築いた山城「桑折西山城」は、国史跡に指定されています。

江戸時代には、新田開発のための農業用水「西根堰」の開削や、日本三大鉱山「半田銀山」の本格的な採掘、蚕種生産の興隆により、幕府の陣屋が置かれるなど、政治経済の中心として繁栄するとともに、交通の要衝「奥州・羽州街道」分岐点（追分）の宿場町としても大いにぎわいました。

1883（明治16）年には、「伊達郡役所」が置かれ、郡一帯の政治の中心地となりました。その木造擬洋風建築物は、現在も国指定重要文化財として、町のシンボルになっています。

史跡桑折西山城跡

1532（天文元）年ごろ、陸奥国守護・伊達氏14代植宗が築いた巨大な山城。この城で伊達家の分国法「塵芥集」の制定や「天文の乱」が起きました。巨大な空堀や枡形出入口など多くの遺構が残る城跡は、平成2年に国の史跡に指定され、植宗が政務を行った建物の間取りも復元されています。

旧伊達郡役所

1977(昭和52)年6月27日に国の重要文化財に指定された町のシンボル的な建物です。1883(明治16) 年の建築物で、総二階建てで、中央に塔屋が設けられています。洋風建築の技法の中に、和風建築の様式が取り入れられ、全体としては「擬洋風建築」となっています。

奥州・羽州街道分岐点「追分」

江戸時代の東北地方における二大街道、奥州街道と羽州街道の分岐点。奥州街道は、仙台・盛岡を通り、羽州街道は、山形・秋田・弘前を通り、2つの街道は、青森郊外の油川で再び合流します。江戸時代に描かれた挿図に基づいて、道標や句碑、柳の木が整備され、往時の様子が再現されています。

半田銀山

半田銀山は佐渡金山・生野銀山とともに日本三大鉱山に数えられ、江戸・明治時代に隆盛を極めました。産出量減少に伴い、幕末に江戸幕府が閉山したものの、1874（明治7）年に薩摩藩出身の五代友厚が経営し、全国最大の銀産出を記録するまでに成長させました。半田銀山史跡公園には、明治時代、銀の鉱滓を運ぶための軌道と羽州街道が立体交差するために架けられた橋の石垣が遺跡として残されています。

五代 友厚（国立国会図書館所蔵）